

世界自然遺産で2030年までに したい30のこと



THINGS TO DO BY 2030

IN JAPAN'S NATURAL WORLD HERITAGE SITES

知床／白神山地／小笠原諸島／屋久島／
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島



知床

Shiretoko



白神山地

Shirakami-Sanchi



小笠原諸島

Ogasawara Islands



屋久島

Yakushima



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island,
Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island



世界自然遺産で 2030年までに したい30のこと

30 THINGS TO DO BY 2030
IN JAPAN'S NATURAL WORLD HERITAGE SITES

日本ではじめて世界自然遺産が登録されたのは1993年。鹿児島県の「屋久島」、青森県と秋田県をまたぐ「白神山地」の2地域です。その後、2005年に北海道の「知床」、2011年に東京都の「小笠原諸島」、2021年には鹿児島県と沖縄県の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が登録され、全5地域となりました。

東京都と公益財団法人東京観光財団は、国内の世界自然遺産登録地のある北海道、青森県、秋田県、鹿児島県、沖縄県と連携し、世界自然遺産の知名度やブランドイメージを活用した観光振興を実施しています。

このたび、世界自然遺産地域の魅力を広く伝えるとともに、各地域の自然保護活動や観光する上で旅行者が守るべきルールやマナーについてまとめたデジタルパンフレットを制作しました。

ここでは、世界自然遺産という貴重な環境において、自然の素晴らしさや動植物の逞しさを学んだり、SDGsとは何かを体感できるような活動を、30の「ミッション」として紹介します。オーソドックスな観光ではなく、体験し、学び、未来を守ることにつながるような旅をしたい。そんな方々にとってこれらのミッションが「やりたいこと」のひとつとなっていけば幸いです。

*持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。
[出典：外務省ホームページ]

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

「顕著な普遍的価値（人類全体にとって特に重要な価値）」を有し、将来にわたり保全すべき遺産として世界遺産委員会が認め、「世界遺産一覧表」に記載されたものが世界遺産です。世界遺産には「自然遺産」と「文化遺産」、両方の価値を兼ね備えている「複合遺産」があります。

世界遺産の評価基準(自然遺産)

自然遺産に登録されるためには4つの評価基準「自然美」「地形・地質」「生態系」「生物多様性」のいずれかを満たす必要があります。

(vii) 自然美

最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。

(viii) 地形・地質

生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。

(ix) 生態系

陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。

(x) 生物多様性

学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。

*番号(i)～(vi)は文化遺産の評価基準です。

世界自然遺産について <https://world-natural-heritage.jp/about/>

日本の世界自然遺産とは

[鹿児島県]

屋久島

Yakushima

面積:約10,700ha 登録年:1993年

vii 自然美

ix 生態系



東京から:羽田空港▶約1時間45分▶鹿児島空港▶約40分▶屋久島空港

大阪から:大阪国際空港(伊丹空港)▶約1時間45分▶屋久島空港

<https://world-natural-heritage.jp/yakushima/>

[鹿児島県・沖縄県]

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island,
Northern part of Okinawa Island,
and Iriomote Island

面積:約42,700ha 登録年:2021年

x 生物多様性



奄美大島

東京から:羽田空港▶約2時間30分▶奄美空港

大阪から:大阪国際空港(伊丹空港)▶約1時間50分▶奄美空港

徳之島

東京から:羽田空港▶約1時間45分▶鹿児島空港▶約1時間▶徳之島空港

大阪から:関西国際空港/大阪国際空港(伊丹空港)▶約1時間15分▶鹿児島空港▶約1時間▶徳之島空港

沖縄島北部

東京から:羽田空港▶約2時間30分▶那覇空港▶約2時間30分▶大宜味村

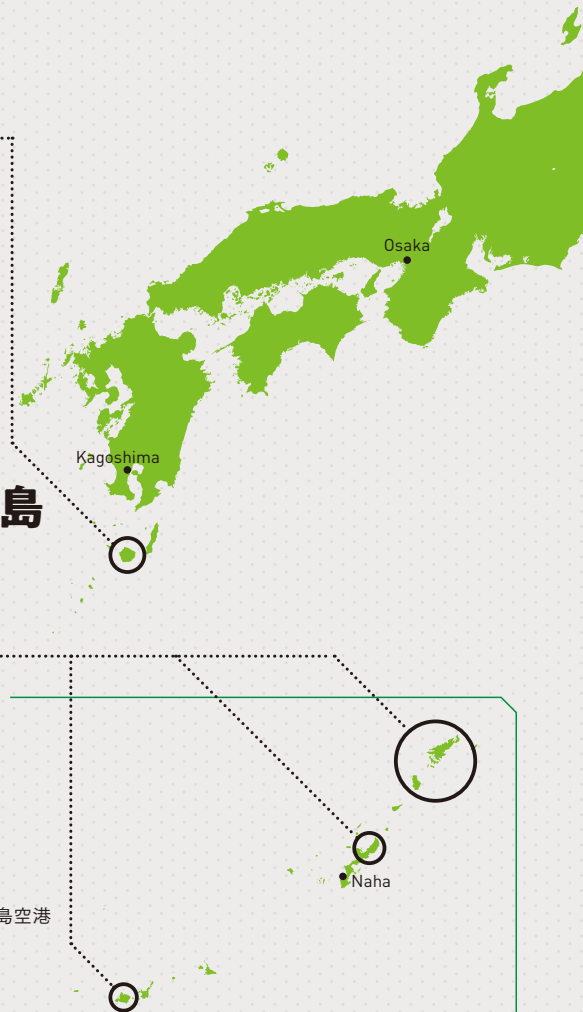
大阪から:関西国際空港/大阪国際空港(伊丹空港)▶約2時間▶那覇空港▶約2時間30分▶大宜味村

西表島

東京から:羽田空港▶約3時間▶新石垣空港▶または約30分▶石垣島離島ターミナル▶約40分▶西表島(上原)

大阪から:関西国際空港/大阪国際空港(伊丹空港)▶約3時間20分▶新石垣空港▶または約30分▶石垣島離島ターミナル▶約40分▶西表島(上原)

<https://world-natural-heritage.jp/amami-okinawa/>





WORLD NATURAL HERITAGE IN JAPAN

[北海道]

知床

Shiretoko

面積:約71,100ha 登録年:2005年

ix 生態系

x 生物多様性



東京から:羽田空港▶✈約1時間45分▶女満別空港▶🚗斜里バス 知床エアポートライナー 約2時間15分 または 🚗約2時間15分▶知床(ウトロ)

東京から:羽田空港▶✈約1時間40分▶根室中標津空港▶🚗約1時間10分▶知床(羅臼)

大阪から:関西国際空港/大阪国際空港(伊丹空港)▶✈約1時間15分▶羽田空港▶✈約1時間45分▶女満別空港▶🚗斜里バス 知床エアポートライナー 約2時間15分 または 🚗約2時間15分▶知床(ウトロ)

大阪から:関西国際空港/大阪国際空港(伊丹空港)▶✈約1時間45~50分▶新千歳空港▶✈約50分▶根室中標津空港▶🚗約1時間10分▶知床(羅臼)

<https://world-natural-heritage.jp/shiretoko/>

[青森県・秋田県]

白神山地

Shirakami-Sanchi

面積:約17,000ha 登録年:1993年

ix 生態系



東京から:羽田空港▶✈約1時間15分▶青森空港▶🚗約1時間5分▶白神山地エリア(鱒ヶ沢町)▶🚗約50分▶白神山地エリア(深浦町)

東京から:羽田空港▶✈約1時間10分▶館能代空港▶🚗約30分▶白神山地エリア(藤里町)

大阪から:大阪国際空港(伊丹空港)▶✈約1時間15分▶青森空港▶🚗約1時間5分▶白神山地エリア(鱒ヶ沢町)▶🚗約50分▶白神山地エリア(深浦町)

大阪から:大阪国際空港(伊丹空港)▶✈約1時間5分▶秋田空港▶🚗約2時間10分▶白神山地エリア(藤里町)

<https://world-natural-heritage.jp/shirakami/>

[東京都]

小笠原諸島

Ogasawara Islands

面積:約7,900ha 登録年:2011年

ix 生態系



東京から:東京駅▶🚗約10分▶浜松町駅▶徒歩約7分▶竹芝桟橋▶🚢約24時間▶小笠原諸島(父島)

大阪から:新大阪駅▶🚗新幹線約2時間20分▶品川駅▶🚗約5分▶浜松町駅▶徒歩約7分▶竹芝桟橋▶🚢約24時間▶小笠原諸島(父島)

<https://world-natural-heritage.jp/ogasawara/>



本パンフレット内に掲載されているアイコンについて

30のミッションには、持続可能な開発目標「SDGs」が示す「17のゴール」の中でもっとも相応しいと思われるアイコンを選び、掲載しています。

「SDGs」については27ページをご参照ください。





知床

登録年／2005年7月

面積／約71,100ha

特徴／陸域・海域いずれにおいても北方系の動植物と南方系の動植物が共存する特異な地域。ヒグマが世界有数の高密度で生息し、渡り鳥の重要な中継地でもある。



自然 Nature

北海道の東部に位置する知床半島は、オホーツク海に突き出た長さ約70kmの半島。世界自然遺産地域は、半島の中央部から先端にかけての陸と海の一部から構成されている。オホーツク海側の斜里町、根室海峡側の羅臼町の間には、羅臼岳、知床硫黄山など知床連峰が横たわる。



生物 Flora and Fauna

知床の海では、流氷に含まれているプランクトンが溶け出し、魚類や海鳥類、鯨類といった海洋生物を育んでいる。サケは川へと遡上し、ヒグマや猛禽類の食物資源となり、残った死骸は土にかえり森の栄養分になるなど、海洋生態系と陸生生態系の相互関係が築かれている。



文化 Culture

知床は、北海道の先住民族アイヌの言葉で岬を意味する「シリ・エトク」が語源といわれ、厳しい環境の中、アイヌや開拓者が自然と共生してきた歴史がある。現在は、乱開発防止のため、エコツーリズムなど、行政や地域が連携し、遺産地域適正利用の取り組みが進められている。



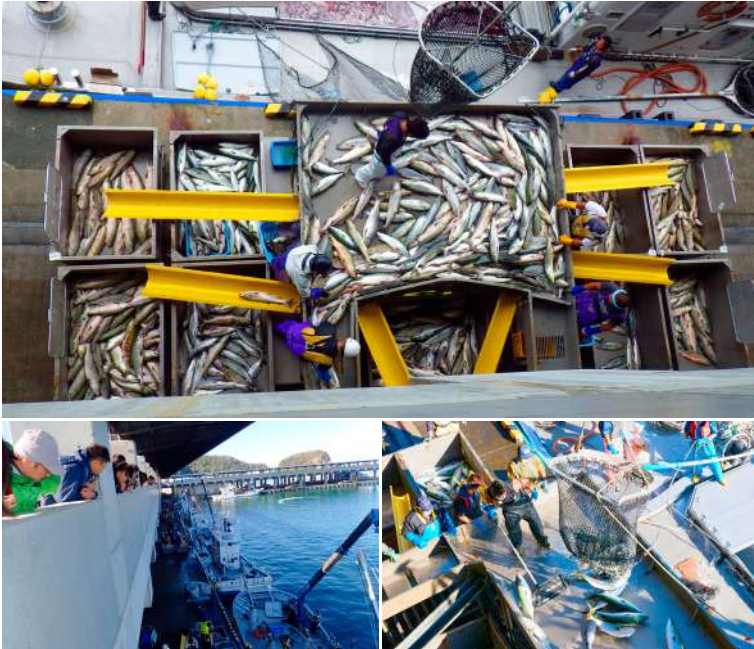
生活 Living

斜里町の主産業は漁業、農業、水産加工業で、宿泊施設が集中するウトロ地区は観光の拠点になっている。一方、羅臼町は漁業が盛んで、スケソウダラやサケのほか、羅臼昆布が有名。中でも羅臼昆布を餌としているウニのおいしさは格別だ。近年は鹿肉などジビエも注目されている。

01 / 30



知床生態系の要・サケの水揚げを見る。



知床・斜里町はサケ類の漁獲量日本一を誇る。また、サケはヒグマとならび、知床の生態系の中心的存在で、世界自然遺産に登録された重要な構成要素でもある。

ウトロ漁港の屋上には、「ウトロ鮭テラス」という無料見学スペースが整備され、サケ、スケソウダラ、カラフトマスなどの水揚げ作業を真上から見るができる。

特に秋の午前中（7時～10時頃）は、船倉から大きなサケが大量に水揚げされ、クレーンで陸に移される光景は迫力満点だ。力強く跳ねるサケの姿に、知床の海の豊かさを実感できる。見学スペースには知床のサケ漁に関する解説も掲示されている。

NPO法人 知床斜里町観光協会
<https://www.shiretoko.asia/>

02 / 30



神秘的な知床五湖をぐるりとめぐる。



知床五湖は、原生林の中にたたずむ5つの湖で、神秘的な雰囲気に包まれている。2011年に利用調整地区制度が導入され、高架木道または地上遊歩道を選び、指定のルートで湖めぐりができる。

高架木道は一湖とつながる往復40分の木道で、無料で散策可能。車いすやベビーカーでも眺望が楽しめるバリアフリー構造となっている。

地上遊歩道（一湖～五湖）は、原生の自然を十分に体験できるように有料かつレクチャー受講が必須で、夏のヒグマ活動期はガイドツアーの参加が義務付けられている。最近では植生が回復傾向にあり、ネムロコウホネなど希少な植物が見られることもある。

知床五湖フィールドハウス
<https://www.goko.go.jp/>

03 / 30



羅臼の流氷と野生動物の力強さを見る。



2月初旬、氷点下10℃にもなる極寒の羅臼は流氷のシーズンを迎える。町内の峯浜パーキングは絶好の流氷観賞スポットになっている。また、越冬のためにやってくる数百羽のオオワシやオジロワシが勇壮に舞う姿は、世界中のバードウォッチャーの憧れだ。

より自然を堪能するなら、羅臼漁港から流氷観光船で海に出てみよう。猛禽類のほか、流氷の上で体を休めるアザラシなど生き物も間近に見られる。雪化粧の知床半島と流氷はまさに極寒の羅臼ならではの風景で、海は厳しくも生命力に満ちている。

また、明け方や夕方になると流氷の海と空が赤く染まり、幻想的な風景が広がる。

羅臼町

<https://kanko.rausu-town.jp/>

04 / 30



絶景発見、ごみ拾い海岸トレッキング。



知床の美しい海を楽しみながら、少しでも自然を守ることに貢献したい。そんな体験として「ごみ拾い海岸トレッキング」がある。知床の自然を知り尽くしたガイドとともに海岸を歩き、漂着したごみを拾っていく。

拾ったごみは分別し、再利用できるものは別アイテムに再生させるアップサイクルも模索している。

ご褒美は知床の絶景だ。知床の砂浜からは、海と知床連山を一望できるほか、水鳥が見られることもある。

現在は団体・教育旅行を対象に募集しているが、個人旅行にも対応できるよう検討を重ねている。アドベンチャー気分を楽しみながら地球環境を考えるきっかけになりそうだ。

一般社団法人 知床しゃり

<https://www.shiretoko-sustainable.com/>

05 / 30



知床峠から羅臼岳の全容を間近に望む。



知床羅臼ビジターセンター <http://shiretokorausu-vc.env.go.jp/>

ウトロと羅臼を結ぶ国道334号「知床横断道路」の知床峠頂上には、展望台と駐車場が整備されている。羅臼岳（標高1,661m）が目前に迫り、全容を一望できることから、知床エリア屈指の絶景ドライブコースとなっている。また、羅臼岳は「知床富士」とも呼ばれ、多彩な高山植物が咲く花の山としても有名だ。天気の良い日は北方領土の国後島も望むことができる。

地元の重要なアクセス道路でもあり、11月上旬～4月下旬は冬季閉鎖されることから、「日本一開通期間の短い国道」とも呼ばれる。

ヒグマやキタキツネに遭遇した場合は、停車せず安全に気をつけて速やかに通過しよう。

06 / 30



羅臼八景の名瀑「熊越の滝」を見る。



知床羅臼ビジターセンター <http://shiretokorausu-vc.env.go.jp/>

羅臼岳の麓、国道334号から徒歩で400mほど分け入った場所にある滝が「熊越の滝」。熊が滝を越えて往来したことから名付けられたといわれ、羅臼八景のひとつとなっている。

滝の落差は15mで、春は特に水量が多い。2018年に新ルートが開設され、滝が見えるポイントまで行くことが可能になった。途中、足元にはシダ類、推定樹齢200年のイタヤカエデなどの植物も見られる。

道から滝の展望ポイントまでは約20分。アップダウンは少ない。訪問前には知床羅臼ビジターセンターで最新情報を確認し、相応の服装とクマよけ用の鈴や撃退スプレーなどの準備が必要だ。

To Don't List

しないことリスト

- ☑ 自然のバランスを保つために、動物に餌を与えない
- ☑ ヒグマに近づかない、刺激しない。車から目撃した場合でも決して車を降りず、速やかに立ち去る
- ☑ 植生保護のために、植生地には踏み込まない
- ☑ エゾシカ、キツネなどの野生動物が飛び出してくることがあるので車のスピードは出さない
- ☑ 景観や野生動物に影響を及ぼすためゴミは絶対に捨てない
- ☑ 漁場や漁業施設に立ち入るなど、漁業活動の妨げになることはしない



白神山地

登録年／1993年12月

面積／約17,000ha

特徴／青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山岳地帯の総称。このうち、原生的なブナ林で占められている区域が1993年12月に世界遺産として登録された。



自然 Nature

白神山地には、ブナ原生林が東アジア最大級の規模で分布している。形成されたのは今から約8000年前とされ、人為の影響を受けず原生状態が保たれているのは、極めて重要な存在だ。ブナは日本固有種の落葉広葉樹で、樹齢は約300年、樹高は30mを超えている。



生物 Flora and Fauna

白神山地では、学術的にも貴重な森林生態系が保たれている。ニホンカモシカやツキノワグマといった14種の中大型哺乳類、クマガラなど94種の鳥類、約2000種の昆虫類などが生息。植物は地域固有種のアオモリマンテマなど約500種が生育している。



文化 Culture

ときには豪雪という過酷な自然の中に暮らし、山や川の恵みをいただきながら、独自の生活様式や民俗文化が培われてきたのが白神山地だ。ここを敬愛し、自然と共生してきた人々が築いた伝統や知恵、文化を知ることがとても有意義なことである。



生活 Living

地域の人々はブナの森を源流とする清らかな水と、山の恵みで命をつないできた。食生活は豊かで、春にはワラビやネマガリダケといった多彩な山菜類が食卓を彩る。川ではアユイワナ、ヤマメなどが獲れる。清流は日本海へと注ぎ、沿岸は良質な漁場になっている。

07 / 30



ニツ森の山頂から 世界遺産の森を見渡す。



白神山地は標高1000m級の稜線が連なり、起伏に富んだ地形が特色で、気軽なトレッキングから本格的な登山コースまで楽しめる。中でも新緑と残雪の6月、紅葉の10月は森がもっとも美しく、歩きやすい季節となる。

秋田県側の青秋林道終点から登るニツ森（標高1,086m）は、白神山地の主要峰のひとつ。山頂からは世界自然遺産地域をぐるりと一望できる。ブナ林から森林限界へ、そして見下ろせば人工物が何ひとつ見えない大自然を見渡せるだろう。初心者やより深く白神を理解したければ、資格を持つ登山ガイドとの同行がおすすめ。山でランチを楽しむプランや、冬のスノーシュー散策を行うプランもある。

一般社団法人 白神コミュニケーションズ
<https://www.shirakamicc.com/>

08 / 30



癒やしの森と幻想的な 神秘の池をめぐる。



十二湖は、日本海にも近く、白神山地きっての絶景スポットだ。名前は「十二」湖だが、1704年に発生した大地震の山崩れにできたという33の湖沼群で構成されている。

中でも「青池」はコバルトブルーの神秘的な池で、青いインクを流したような水の色が幻想的だ。日本名水百選の「沸壺の池」や、「長池」「鶏頭場（けとば）の池」なども神秘的な雰囲気を漂わせている。

歩道が整備され、初心者でもブナ林に囲まれた中を気軽に散策できる。木漏れ日が美しく、野鳥のアカショウビンが見られることもあり、心身ともにリフレッシュできる。

白神山地ビジターセンター
<http://www.shirakami-visitor.jp/>

09 / 30



新スタイル・白神山麓の川辺でサウナ。



秋田県側白神山地の麓、藤里町では、川辺にテントサウナを設置する企画が進んでいる。サウナでほてった身体は、白神山地から流れ込む川に入ってクールダウン。いわゆる「整う」状態を体験でき、新しいスタイルとして注目されている。

サウナのロウリュには、町内に研究所を構える化粧品会社から素材提供された地元産のヨモギ、および、白神山地周辺の山で採集されるクロモジで作られたアロマ水を使用し、香りも楽しめる。

頭部への熱を遮り、髪を乾燥から守るサウナハットも注目だ。町内のお母さんたちが丹精込めて制作している。町内の放牧場で飼育されている羊毛を使用したオールハンドメイドで、多彩なデザインが揃っている。

藤里町 <https://www.town.fujisato.akita.jp/>

羊毛ハウスちくちく <https://wool-store-37.business.site/>

THE 世界遺産サウナ

<https://activityjapan.com/publish/plan/44152?plan-recent>

10 / 30



“海の森”を思い、ブナの植樹に参加する。



秋田県八峰町は、民謡にも登場する「ハタハタ」で知られ、沿岸漁業が盛んな地域だ。そして白神山地のブナの森から供給される良質な水は、魚類が産卵・ふ化するための藻場“海の森”の再生に重要な役割を果たしている。

世界自然遺産区域に隣接する真瀬沢の造林地は、元来ブナ林であった場所だ。現在はブナの森づくりのため、地元でブナの実を採取し、育てた苗木を植樹するという取り組みを進めている。

毎年10月に植樹が行われるが、一般の人も参加が可能だ。森を復元することは海の復元にもつながり、沿岸生態系の多様性を広げることが期待されている。

NPO法人 白神ネイチャー協会

<http://www.shirakami.or.jp/~asna/>

11 / 30



白神の巨木 「マザーツリー」と出会う。



アクアグリーンビレッジANMON <https://www.anmon-shirakami.com/>

津軽峠から約300mの場所に立つのが「マザーツリー」だ。推定樹齢約400年というブナの巨木の愛称で、白神のシンボルとして親しまれてきた。2018年の台風で幹が折れてしまったが、今もなお圧倒的な存在感を保っている。

落下した幹は人為的に取り除かず、そのままの状態で保存されている。幹が折れて林床まで日が入り、周囲が明るくなったことで新しい木が育っており、自然のありのままの営みを見ることが出来る。

マザーツリーへと向かう道では、ブナをはじめとする数々の植物が観察できる。また、マザーツリーから少し進むと展望所があり、岩木山や尾太岳を望むことも出来る。

12 / 30



白神の豊かな自然を 「そば」で味わう。



道の駅津軽白神 <https://www.tsugaru-shirakami.com/>

青森県側の白神山地の玄関口となる西目屋村は、水源の里として知られるほか、寒暖差が大きく、そばの名産地でもある。

「白神そば」は西目屋村産そばのブランドで、栽培から脱穀、製粉、さらには手打ちそばの提供まで村内で行っている。無農薬栽培で生産量が少ないことから、「幻のそば」とも言われている。

村内の体験施設では、そば打ちに挑戦することができる。打ちたてを、白神山地が育んだ水で茹でれば、香り高く、ほんのり甘いそば本来の風味と、コシのあるそばの喉越しを楽しむ。自分で打って味わうのは、より感動的な体験になるだろう。

To Don't List

しないことリスト

- ☑ 決められたルートでも危険箇所が多くあるので、安易な気持ちでの入山はしない
- ☑ 動植物を採らない・持ち込まない
- ☑ ニホンジカなどの野生生物に悪影響を及ぼす恐れがあるのでゴミは絶対に捨てない
- ☑ トイレ以外の場所で用を足さない。事前に済ます、または携帯トイレを持参する
- ☑ ペットの持ち込みはしない
- ☑ 登山届(入林届)が必要な場所では必ず届け出を行う。届け出をせずに入山してはいけない



小笠原諸島

登録年/2011年6月

面積/約7,900ha

特徴/東京から南に約1,000km離れた父島、さらに南に50km離れた母島を中心として大小30余りの島々からなる。大陸と陸続きになっ

たことがない海洋島として、独自の生態系を形成している。



自然 Nature

大陸と陸続きになっ

たことがない海洋島で、世界でここにしかない固有種も多く「進化の実験場」の別名も。父島の年平均気温は23.0℃・湿度77%で亜熱帯海洋性気候に属する。海の青色はかつての島名「無人島」が転じて「ポニンブルー」と呼ばれる。



生物 Flora and Fauna

植物は自生種の5割が固有種とされ、生息する動物も天然記念物に指定された固有種が多い。海ではクジラ、イルカのほか、水温が年平均23.0℃と高いため、サンゴ礁の基礎を成す約200種の造礁サンゴも見られる。またアオウミガメの繁殖地としても有名だ。



文化 Culture

太平洋諸島民、また欧米人なども住んだことから多言語が入り混じった独特の「小笠原ことば」が形成された。南洋貿易が盛んだった時代に南洋諸島から伝来した「南洋踊り」は、東京都指定無形民俗文化財となっている。



生活 Living

小笠原への交通手段はほぼ1週間に1便、東京から片道約24時間かかる「おがさわら丸」のみ。観光業は基幹産業の一つ。島民の観光客へのもてなしの心は厚く、おがさわら丸が父島を出港するときは、島中の人が集まったかと思うほどの盛大で感動的な見送りが行われる。

13 / 30

アオウミガメを海へ還す。



ウミガメは地球上に7種類存在し、その多くは絶滅危惧種に指定されている。小笠原諸島はそのうちのひとつであるアオウミガメの日本最大の繁殖地だ。かつては食用目的で乱獲され激減したが、保護活動によって30年前の約10倍にまで産卵巣数が回復した。

小笠原海洋センターでは年間約15,000～20,000頭の子ガメが生まれており、そのうち飼育を行う約300頭以外の個体は夜間放流会で放流している。頭上に満天の星が煌めく真っ暗闇の海岸で、前夜～当日未明にかけてふ化したばかりの子ガメたちが一心不乱に海を目指す。彼らが砂をかき分けるかすかな音を聴くと、自分が自然保護に寄与している実感が湧いてくるだろう。

小笠原海洋センター
<https://bonin-ocean.net/>

14 / 30

躍動するクジラやイルカを体感する。



小笠原は1988年、日本で初めてホエールウォッチングが行われた場所。マッコウクジラのウォッチングは初夏～秋を中心に、ザトウクジラは2～4月が適期とされる。最短距離約100m（マッコウクジラは50m）の場所で見えるブロー（潮吹き）やブリーチ（大ジャンプ）のエネルギーに圧倒されるはずだ。海上からだけでなく、父島ではウェザーステーション展望台、母島では御幸之浜、鯨ヶ崎などからも見ることができる。

ドルフィンウォッチングやイルカと一緒に泳ぐドルフィンスイムは年中催行。イルカを驚かさないように静かに泳げば、好奇心旺盛なミナミハンドイルカが寄ってくることも。

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
<https://www.owa1989.com/>

15 / 30



生態系 保護活動を知る。



母島の南崎は人の定住地では日本最南端に位置する。かつてはカツオドリの繁殖地だったが、ノネコ（野良猫）に捕食され激減。そこで有資格者によるノネコ捕獲プロジェクトが始まり、2014年には再びカツオドリの営巣が確認された。保護されたノネコは小笠原から本土に搬送され、里親が引き取る仕組みもある。

また、小笠原の生態系や在来植物に深刻な影響を及ぼす外来植物「アカギ」も、増殖を防ぐために駆除が必要な状況だ。現在はコロナ禍で休止中だが、今後の状況に応じて再開を検討しているボランティアツアーに参加すれば、自らの手でアカギを駆除し、生態系を守る活動に貢献することもできる。

一般社団法人 小笠原母島観光協会
<https://hahajima.com/>

16 / 30



小笠原産コーヒーで チルアウトする。



小笠原は1878年頃に日本初のコーヒー栽培が始まった場所。第二次世界大戦、米国統治を経て、1972年、4代目がジャングルと化していた畑を開墾し栽培を再開した。ほぼ全工程が手作業、かつ無農薬の小笠原コーヒーが飲めるのは、通販を除けば父島のカフェとNose's Farm Gardenのコーヒーツアーのみ。

約2.5時間のツアーでは摘み採り→苗木の採集→脱穀→欠点豆の除外→焙煎→ミル→ドリップ→試飲を行う（季節により内容は変動）。すっきりとした飲み口のため、豆を多めに使い、しっかり抽出するとより美味しくいただけるそうだ。手間暇をかけてつくられる一杯の美味しさとありがたさを感じてみよう。

Nose's Farm Garden
<https://www.nosefarm.com/>

17 / 30



光るキノコと 出会う。



小笠原村観光協会 <https://www.ogasawaramura.com/>

小笠原に数あるナイトツアーでは、集落に比較的近い森に群生するヤコウタケ（夜光茸）の人気も高い。島では「グリーンペペ」と呼ばれ、昔のおまじないがその名前の由来とされる。日中は白色に近い灰色だが、夜間はヒスピジンという物質とヤコウタケの酵素が反応して発光する。世界で確認されている光るキノコ約70種の中でもグリーンペペの照度はトップクラスで、夜光塗料が塗られた時計の文字盤より明るい。淡いエメラルド色に光るグリーンペペは神秘的な美しさだ。適度な湿度を好み、4～11月の特に雨上がりの夜に見られやすい。

18 / 30



絶景を目指して トレッキングする。



一般社団法人 東京諸島観光連盟 小笠原村観光局 <https://www.visitogasawara.com/>

父島・母島は第二次世界大戦時に全島が要塞化された。今も島内の至る所にその戦跡が遺るフィールドを歩くことで、自然だけでなく歴史や平和についても学べるのは小笠原ならではの。代表的なのが「ハートロック」を目指すトレッキングツアー。海側から見るとハート形を描く絶壁になっていることからハートロックと名付けられた巨岩の最頂部を目指す。亜熱帯の森の多いガジュマルの樹々を抜け、固有の動植物や軍用車の残骸を観ながら約2.5時間進むと、海拔約300mの頂上に到着。青空とボニブルーの海がつくる360度のパノラマは圧巻だ。冬～春にはザトウクジラを遠望できることも。

To Don't List

しないことリスト

- ☑ 外来生物を持ち込まない。靴や衣服などに付着した植物の種子や土はきれいに取り除く
- ☑ 景観や野生動物に影響を及ぼすためゴミは絶対に捨てない
- ☑ 歩道をはずれて歩かない
- ☑ ムニンアオガンピなどの植物は採らない、持ち帰らない
- ☑ 動物を驚かせたり、追い立てたりしない。動物の生息地では大声を出さない。動物への気配りを忘れない
- ☑ 全島キャンプ禁止となっているので、キャンプはしない



屋久島

登録年／1993年12月

面積／約10,700ha

特徴／標高1,000m以上の山々が連なっているため気温の幅が広く、日本全体の自然植生が標高ごとに垂直分布されている。また樹齢1,000年以上の巨大な杉が多く生育している。



自然 Nature

1400万年前花崗岩が隆起して誕生。宮之浦岳（1,936m）など高山が連なり「洋上のアルプス」とも。標高500mから上は屋久杉、中腹から下は原生的な照葉樹、木々の根元では無数の苔が息づく。月に35日雨が降ると例えるほど雨の島でもある。



生物 Flora and Fauna

ヤクシカ、ヤクシマサルが島全域に生息、滞在中に目にする確率が高い。ウミガメの産卵地で、5～8月の夜の海岸にはアカウミガメ、アオウミガメが上陸する。ヤクヤモリ、ヤクシマオニクワガタ、ヤクシマサワガニなど小さな固有種他、天然記念物の小鳥も。



文化 Culture

屋久島の人にとって山は神聖な場所。江戸時代からとされる伝統行事に集落の代表が山頂の祠を参り、無病息災を祈る「岳参り」がある。人口減少で途絶えた集落もあるが、自然への畏敬の念は今も変わらず2007年（平成19）制定「屋久島憲章」に記されている。



生活 Living

ほとんどが山岳地帯のため海岸沿いに集落がある。山から杉を切り出し、海で魚を取り、農作業をしてきた暮らしを「山に十日、海に十日、野に十日」と言われる。60年前から日本一の雨量を生かし、水力発電で電力を自給。島の生活はまさに自然との共生である。

19 / 30

☑ 「苔むす森」を歩く。



映画『もののけ姫』のイメージの源となったといわれる「白谷雲水峡」。標高600～1,050mに位置する自然休養林で、白谷川の清流を中心にハイキングコースがある。「苔むす森」は入口から約1時間、太鼓岩の1km手前。屋久島の苔は約650種に及ぶという。辺り一面緑の中に佇んで、異世界に迷い込んだ感覚を味わいたい。

往復で約2時間、トレッキングシューズなど登山の準備が必要。弥生杉コースならば約1時間、スニーカーでもOK。距離は短くとも、こちらも無数の苔が広がり、森の美しさを存分に体感できる。入場の際は森林環境整備推進協力金に協力を（高校生以上500円）。

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
<https://y-rekumori.com/>

20 / 30

☑ 屋久杉で「マイ箸」をつくる。



樹齢1,000年以上の杉を屋久杉という。長い時をかけて成長したぶん年輪が密で樹脂が多く、独特の香りを持つ。害虫に強く腐りにくいという特徴もある。現在屋久杉の伐採は禁止のため、使われるのは土埋木（江戸時代に切り出された木の切り株）という貴重な木材だ。

「杉の舎」では、他の樹種では捨てられてしまうような部分（土埋木）を使用しての箸作り体験ができる。ナタで一膳のサイズに割った状態で乾燥させたものを、ノミで削り、艶が出るまで磨いて完成。自分で削った箸は少々癖のある使い勝手かもしれないが、ご飯はきっと美味しいことだろう。

杉の舎（すぎのや）本店
<https://suginoyas.com/>

21 / 30



集落で地元の語り部と 出会う。



人口約12,000人の島に26集落（口永良部島含む）。かつて屋久島では川で遮られ、相互交流も少なかった。集落ごとに個性があり、言葉も違う。人々は島にひとつの高校に通いはじめて、その集落ごとの違いを知った。

現在は10の集落で地元の語り部が案内する里めぐりコースがある。宮之浦集落ではまず「益救神社」へ。927年編纂の「延喜式神名帳」に載る由緒ある神社で、島民の信仰を知ることができる。春牧集落は滝之川の一枚岩、溪谷にかかる赤い松峯大橋などの絶景がある。サバ漁で栄える一湊集落ではサバ節を使った地元料理が味わえる。毎年訪ねるリピーターもいて、語り部の魅力は大きいようだ。

屋久島里めぐり推進協議会
<https://www.yakushima.jp/>

22 / 30



島のジェラートで ひと休みする。



島で採れた季節のフルーツをたっぷり使った本格ジェラート店「そらうみ」。農薬不使用栽培の素材を多く使用し、島産の塩やお茶なども厳選。保存料も無添加。フルーツはグアバ、すもも、タンカン、ドラゴンフルーツ、びわ、パイナップル、パパイヤ、野いちご、マンゴーなど。コーヒーも評判で、スペシャルティコーヒーの豆を屋久島のおいしい超軟水で淹れている。店舗は島南部・麦生集落にあり、店内でゆっくり休憩できる。宮之浦や安房など、島内数カ所にジェラートカップの販売店もある。旅の途中、何度も寄りたくなること請け合いだ。

屋久島ジェラートそらうみ
<https://yakushima-gelato.jimdofree.com/>

23 / 30



リバーカヤックで 屋久島の「水」を知る。



「川底は白く、陽光でエメラルドグリーンにも輝く。屋久島ほど川の素晴らしいところはない」と島に暮らす人は語る。屋久島は花崗岩の島で森に土が少なく、雨が降っても濁りにくい。そのため養分が少なく生き物も少ないため、川がきれいだという。

屋久島の川をゆっくり体感できるのがリバーカヤックだ。とくに渓谷美が見事な安房川は、広く穏やかで初心者でも気軽にリバーカヤックを楽しめる。晴れの日には緑が真っ青に、霧や雨の日には幻想的な世界となる。

公益社団法人 屋久島観光協会 <http://yakukan.jp/> 屋久島ガイド島あそび <https://yakushima-asobi.com/>

24 / 30



環境にやさしい EVで島内を回る。



60年前からクリーンエネルギー（水力発電）でほぼすべての電力を賄っている屋久島。白谷雲水峡入口の管理棟も、そばのミニ水力発電施設で発電している。鹿児島県では、屋久島を早期からCO²発生を抑えた先進的な地域とし、「屋久島CO²フリーの島づくり」を掲げてモデル地区化を目指している。電気自動車（EV）の導入を進めており、安房、宮之浦、栗生、永田といった各地域に急速充電できるEVステーションも整備された。レンタカー会社でもEV車を用意しているので、島内移動に利用してみよう。

鹿児島県 <http://www.pref.kagoshima.jp/>

To Don't List

しないことリスト

- ☑ 自然のバランスを保つために、サルやシカなどの動物に餌を与えない
- ☑ 登山やトレッキングの際、設定されたルート以外に踏み込まない
- ☑ 島の人達が大切にしている貴重な水源には立ち入らない
- ☑ 景観や野生動物に影響を及ぼすためゴミは絶対に捨てない
- ☑ 岩や倒木に生えたコケを踏まない。自然に負荷を与える行動をしない
- ☑ 動植物を採らない・持ち込まない



奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島

登録年/2021年7月

面積/約42,700ha

特徴/4つの地域は、その面積が日本の国土面積の0.5%に満たないにも関わらず、日本の動植物種数に対して極めて大きな割合を占める種が生息・生育している。



自然 Nature

黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受け、温暖で多湿な亜熱帯性気候。海には珊瑚礁、内陸には原生的な常緑の広葉樹林が広がる。マングローブ、ガジュマル、ソテツなど植生も独特だ。とくに西表島は島のおよそ90%が亜熱帯の原生林で覆われる。



生物 Flora and Fauna

気候の幅や自然の豊かさから生物多様性が高いといわれる日本。その中でも特に生物種が多く固有種が目立つ。天然記念物のアマミノクロウサギやイリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナなど、絶滅危惧種としてIUCN（国際自然保護連合）レッドリストに記載されている。



文化 Culture

琉球王国の最盛期には、奄美群島から沖縄諸島、先島諸島までその勢力が及んだ時代もあった。独特の言語やイントネーション、三線をつまびく島唄、伝統工芸に織物があるなど共通点は多い。昔ながらの神事や伝統行事、風習などを語り継ぎ、今も大切にしている。



生活 Living

自然のそばに生活圏があるため、環境を守ろうとする活動も多く、エコツアーも盛ん。集落内や家族とのつながりは濃く、集まってはゆんたく（おしゃべり）し、焼酎や泡盛を酌み交わし、場が楽しくにぎわえば、踊りが始まることも。

25 / 30

☑ 夜にクロウサギを見守る。



アマミノクロウサギは奄美大島と徳之島だけに生息する特別天然記念物。体長40~50cm、黒い毛に短い耳、穴掘りが得意で立派な爪を持つ。ガイドと行くナイトツアーであればかなりの高確率で見ることができる。車内からその姿を探しながら森をゆっくり走行。アマミノクロウサギがいたら、静かに、じっくり観察だ。

他にも鳥、虫、島特有の植物、満点の星空と見どころ満載。また夜の森は賑やかでリュウキュウコノハズクの雌雄のささやき、ケナガネズミの喧嘩、カエルの鳴き比べも聞こえてくる。参加者の満足度は高く、「奄美でいちばん楽しかった」という声もあるそうだ。

一般社団法人 奄美群島観光物産協会
<https://www.amami-shimahaku.com/>

Active-Amami
<https://active-amami.com/>

26 / 30

☑ ウミガメとシュノーケリングする。



穏やかで透明度が高く、少し泳いただけでもクマノミなどたくさんの熱帯魚や色とりどりの珊瑚礁を見ることができる奄美大島の海。ウミガメやクジラなどの中継地、また越冬・繁殖地でもあり、冬場はホエールウォッチングもできる。

初心者でもシュノーケリングに挑戦しやすい環境が整っている。野生のウミガメと一緒に泳げる「ウミガメシュノーケリング」は人気だ。「オーシャンズ」のツアーでは、2021年から2022年にかけてほぼ100%の参加者が野生のウミガメと遭遇し、一緒に泳ぐ体験をしている。インストラクターが対応してくれるので、初めてでも安心だ。

一般社団法人 奄美群島観光物産協会
<https://www.amami-shimahaku.com/>

オーシャンズ
<https://www.oceanz-jp.com/>

27 / 30



沖縄の森のコーヒー園で焙煎体験をする。



沖縄本島北部の「又吉コーヒー園」では、自家栽培のコーヒー豆の収穫体験が11～4月頃にできる。自家栽培ではなくとも生産者にこだわった豆を使う焙煎体験は通年行われている。焙煎体験で使われる豆の中には、グアテマラの農家との直接取引で入手した、ここでしか味わえないものもある。

焙煎を始める前にまず楽しむのは、生豆の香り。女性はチョコレート、男性は量とを感じる人が多いそうだ。焙煎は火から網を離さないように、左右にしっかり振る。丁寧に説明しながら進めていくので安心だ。生産者の話を聞きながらゆっくり味わう「マイコーヒー」も、沖縄の味覚のひとつである。

又吉コーヒー園
<https://www.matayoshicoffee.jp/>

28 / 30



やんばるの天然水を使った泡盛を味わう。



漢字で「山原」と書くやんばるは、沖縄本島北部で手つかずの自然が残る場所。2021年、世界自然遺産に登録されたのは国頭村、大宜味村、東村でその8割が森林。水系豊かで清らかな水が滔々と流れる。

長寿の村として知られる大宜味村に、約70年、やんばるの天然水を使い続ける酒造会社がある。村の人々の出資により誕生した「やんばる酒造」だ。創業時から集落の水を使い、その水路を守り、整備し、永く使えるよう大切にしてきた。「美しい自然があり、おいしい水が飲めるのは、地元の人が今も自然と共に生きている証」とやんばる酒造の池原氏は語る。

やんばる酒造
<https://takazato-maruta.jp/>

29 / 30



西表島の ビーチクリーンに参加する。



NPO法人 西表島エコツアーリズム協会 <https://www.iriomote-ea.com/>

イリオモテヤマネコやマングローブ林で知られる西表島でも、近年では海岸のごみが目立つ。島では20年前からビーチクリーンを行い、漂着ごみのデータを収集。その9割が海外のプラスチック製品だという。西表島には漂着ごみを処理できる施設がない。ごみは船で石垣島へ運んで処理しており、その費用は島の予算を圧迫する。

そこで考えられたのが、自然体験ツアーの中で実施する「1バッグビーチクリーン」だ。参加者は500円でごみ袋を1枚購入。その代金は企業からの寄付とあわせて、漂着ごみの搬送と処理にあてられる。参加者が増えれば増えるほど、やがてはごみの減量にもつながる。

30 / 30



精霊が棲む ガジュマルに逢いにいく。



一般社団法人 徳之島観光連盟 <http://www.tokunoshima-kanko.com/>

奄美群島にはケンムン（沖縄ではキジムナー）と呼ばれる精霊がいる。その姿は子どものようであり、河童のようでもあるという。人に悪戯をするといわれているのに、島々では昔から親しまれている存在だ。そのケンムンが棲むというのが、南西諸島で多く見られるガジュマルの木。

徳之島の阿権^{あごん}に、樹齢300年を超える見事なガジュマルが立っている。神秘的な雰囲気漂わせ、確かにここにはケンムンがいそうだ。ガジュマルはその生命力の強さから「幸運の木」とも呼ばれ、花言葉は「健康」。300年以上、人に剪定されることなく大きく育ったこのガジュマルの幸運と健康にあやかりたい。

To Don't List

しないことリスト

- ☑ 自然のバランスを保つために、動物に餌を与えない
- ☑ 動植物を採らない・持ち込まない
- ☑ マングローブ林で動力船の使用や動植物の捕獲・採取は一切禁止。またむやみにマングローブ林に上陸しない
- ☑ 景観や野生動物に影響を及ぼすためゴミは絶対に捨てない
- ☑ トイレ以外の場所で用を足さない。事前に済ます、または携帯トイレを持参する
- ☑ ハブ等の危険生物もいるため、なるべく一人で山の中へは入らない

世界自然遺産で 2030年までにしたい30のこと

30 THINGS TO DO BY 2030 IN JAPAN'S NATURAL WORLD HERITAGE SITES

知床 Shiretoko	ミッション
	01 <input type="checkbox"/> 知床生態系の要・サケの水揚げを見る。
	02 <input type="checkbox"/> 神秘的な知床五湖をぐるりとめぐる。
	03 <input type="checkbox"/> 羅臼の流氷と野生動物の力強さを見る。
	04 <input type="checkbox"/> 絶景発見、ごみ拾い海岸トレッキング。
	05 <input type="checkbox"/> 知床峠から羅臼岳の全容を間近に望む。
06 <input type="checkbox"/> 羅臼八景の名瀑「熊越の滝」を見る。	
白神山地 Shirakami-Sanchi	ミッション
	07 <input type="checkbox"/> ニツ森の山頂から世界遺産の森を見渡す。
	08 <input type="checkbox"/> 癒やしの森と幻想的な神秘的池をめぐる。
	09 <input type="checkbox"/> 新スタイル・白神山麓の川辺でサウナ。
	10 <input type="checkbox"/> “海の森”を思い、ブナの植樹に参加する。
	11 <input type="checkbox"/> 白神の巨木「マザーツリー」と出会う。
12 <input type="checkbox"/> 白神の豊かな自然を「そば」で味わう。	
小笠原 Ogasawara Islands	ミッション
	13 <input type="checkbox"/> アオウミガメを海へ還す。
	14 <input type="checkbox"/> 躍動するクジラやイルカを体感する。
	15 <input type="checkbox"/> 生態系保護活動を知る。
	16 <input type="checkbox"/> 小笠原産コーヒーでチルアウトする。
	17 <input type="checkbox"/> 光るキノコと出会う。
18 <input type="checkbox"/> 絶景を目指してトレッキングする。	
屋久島 Yakushima	ミッション
	19 <input type="checkbox"/> 「苔むす森」を歩く。
	20 <input type="checkbox"/> 屋久杉で「マイ箸」をつくる。
	21 <input type="checkbox"/> 集落で地元の語り部と出会う。
	22 <input type="checkbox"/> 島のジェラートでひと休みする。
	23 <input type="checkbox"/> リバーカヤックで屋久島の「水」を知る。
24 <input type="checkbox"/> 環境にやさしいEVで島内を回る。	
奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び 西表島 Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island	ミッション
	25 <input type="checkbox"/> 夜にクロウサギを見守る。
	26 <input type="checkbox"/> ウミガメとシュノーケリングする。
	27 <input type="checkbox"/> 沖縄の森のコーヒー園で焙煎体験をする。
	28 <input type="checkbox"/> やんばるの天然水を使った泡盛を味わう。
	29 <input type="checkbox"/> 西表島のビーチクリーンに参加する。
30 <input type="checkbox"/> 精霊が棲むガジュマルに逢いに行く。	

持続可能な開発目標「SDGs」とは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

出典：外務省ホームページ https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html#about_sdgs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



本パンフレット内に掲載されているアイコンについて

30のミッションには、持続可能な開発目標「SDGs」が示す「17のゴール」の中でもっとも相応しいと思われるアイコンを選び、掲載しています。ひとつのミッションを体験することで知り得たこと・学んだこと・感じたことは、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」を理解することにもつながっていきます。

参考・協力

外務省 環境省 北海道 斜里町 NPO法人 知床斜里町観光協会
羅臼町 知床五湖フィールドハウス 一般社団法人 知床しゃり 環境
省ウトロ自然保護官事務所 知床羅臼ビジターセンター 公益財団法
人 知床財団 環境省羅臼自然保護官事務所 青森県 秋田県 一
般社団法人 白神コミュニケーションズ 白神山地ビジターセンター 藤
里町 藤里町ツーリズム協議会 羊毛ハウスちくちく NPO法人 白神ネ
イチャー協会 アクアグリーンビレッジANMON 道の駅津軽白神 小
笠原村 小笠原村観光協会 一般社団法人 東京諸島観光連盟 小
笠原村観光局 小笠原海洋センター 一般社団法人 小笠原ホエール
ウォッチング協会 一般社団法人 小笠原母島観光協会 Nose's Farm
Garden 鹿児島県 公益社団法人 屋久島観光協会 屋久島レクリ
エーションの森保護管理協議会 杉の舎 屋久島里めぐり推進協議会
屋久島ジェラートそらうみ 屋久島ガイド島あそび 沖縄県 一般社団
体法人 奄美群島観光物産協会 Active-Amami オーシャンズ 又吉
コーヒー園 やんばる酒造 一般社団法人 大宜味村観光協会 NPO
法人 西表島エコツーリズム協会 一般社団法人 徳之島観光連盟

写真提供

NPO法人 知床斜里町観光協会 知床五湖フィールドハウス 羅臼町
一般社団法人 白神コミュニケーションズ 白神山地ビジターセンター
藤里町ツーリズム協議会 NPO法人 白神ネイチャー協会 アクアグリー
ンビレッジANMON 道の駅津軽白神 米澤いさお 小笠原海洋セ
ンター Kosuke Enomoto 一般社団法人 小笠原ホエールウォッチン
グ協会 一般社団法人 小笠原母島観光協会 Nose's Farm Garden
一般社団法人 東京諸島観光連盟 小笠原村観光局 屋久島レクリ
エーションの森保護管理協議会 杉の舎 屋久島里めぐり推進協議会 屋
久島ジェラートそらうみ 屋久島ガイド島あそび 公益社団法人 屋久島
観光協会 屋久島町 PIXTA 一般財団法人 沖縄観光コンベンショ
ンビューロー Active-Amami オーシャンズ やんばる酒造 NPO法
人 西表島エコツーリズム協会 一般社団法人 徳之島観光連盟 一般
社団法人 奄美群島観光物産協会

東京都／公益財団法人東京観光財団

Tokyo Metropolitan Government / Tokyo Convention & Visitors Bureau

E-mail: tcvbinfo@tcvb.or.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町346番地6 日新ビル
Nissin Building, 346-6 Yamabukicho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0801

© 2022 Tokyo Convention & Visitors Bureau. All rights reserved.